

00年度平均2900円 18年度は5800円

保険料上増 強まる負担

介護保険に加入している65歳以上の人々は、2018年度末で3525万人。こ

のうち滞納して資産の差し押さえを受けた人は、18年度は過去最多の1万922人。差し押さえには至ら

ないが、滞納を理由に介護サービス利用時の自己負担額が増すなどのペナルティを受けた人も18年度は18年度から月5869円と見込まれている。

保険料の上昇は、高齢者が増えて介護サービスにかかる費用（介護給付費）が

万4321人いた。

要因の一つには保険料の上昇がある。65歳以上の保険料は3年に一度見直されるが、00年度に全国平均で月2911円だったのが、一方で若いころから生活

に倍増。団塊の世代がすべて75歳以上になる25年度には月7200円程度になると見込まれている。

ふくらんでいるからだ。介護給付費は今後も増える見

通しで、長期的にも保険料の上昇は避けられない。

一方で若いころから生活

が苦しく、年金保険料をほとんどの高齢者は少くない。厚労省によると、受け取る年金が国民年金のみで、月2万円未満の低年金者は18年度未現在で約16万人いる。無年金者の統計はないが、一定数い

るとされる。こうした高齢者には、介護保険料の上昇

は重荷だ。

生活困窮者を支援する群馬県の司法書士・仲道宗弘さんによると、コロナ禍で仕事を失い、保険料を払えなくなつた高齢者の相談が増えているという。「生活保護を受給していない低年金者は家賃を払うと生活はぎりぎり。今後、保険料を払えない高齢者は確実に増える」と話す。

3割に上がる。ペナルティ

によって、滞納した高齢者

者がサービスを受けにくく

環境に追い込まれている、

との指摘もある。

厚労省幹部は「増税時は

低所得者の保険料負担を軽

減するなど対策はしてき

た。40歳未満に保険料負担

をお願いすることも有力な

考えだが、線引きなども含

め簡単な」とではない」と

話す。（山本恭介）

若い世代の負担も必要

下野恵子・立命館大客員研究員（財政学）の話

年金が年18万円未満の人が介護保険料を直接納める仕組みでは、滞納が起きるのは当たり前で、制度的欠陥だ。3年ごとの保険料引き上げのたびに高齢者は不安になっている。10年程度は収入の一定割合の保険料率に固定したり、若い世代に保険料を負担してもらったりすることが必要だ。

納付期限から2年以上、滞納した人は、サービス利用時の自己負担が1割から

重荷だ。生活困窮者を支援する群馬県の司法書士・仲道宗弘さんによると、コロナ禍で仕事を失い、保険料を払えなくなつた高齢者の相談が増えているという。「生活保護を受給していない低年金者は家賃を払うと生活はぎりぎり。今後、保険料を払えない高齢者は確実に増える」と話す。

3割に上がる。ペナルティによって、滞納した高齢者がサービスを受けにくく環境に追い込まれている、との指摘もある。

厚労省幹部は「増税時は

低所得者の保険料負担を軽

減するなど対策はしてき

た。40歳未満に保険料負担

をお願いすることも有力な

考えだが、線引きなども含

め簡単な」とではない」と

話す。（山本恭介）